

原発 **0** にむかって

2013年1月30日 No.42

<http://www.tokyominiren.gr.jp/>

編集・発行／東京民医連事務局 tel: 03-5978-2741 fax: 03-5978-2865 mail: sien@tokyominiren.gr.jp

1月13日～14日
北中ブロック

福島支援バス旅行に21人が参加

1月13日(日)～14日(月)、21人(共同組織8人・職員13人)の参加で、北中ブロック福島支援バス旅行が行われました。

1日目は、小名浜生協病院事務長の國井さんに同乗していただき、車窓の景色に合わせて震災や原発事故の状況・住民の状況などお話を伺いました。



豊間中学校前で手をあわせる女性

震災の日のままの校舎や体育館。プールや校庭に積まれた瓦礫、土台だけの家……。じっと手を合わせている女性・・・(写真左)。津波の怖さと悲しさを実感させられました。

広野町から楡葉町に入ると家や畑はあるのに誰もいない・・・何とも言えない異様さを感じました。役場には、「エネルギー福祉都市」の看板が空しく立っていました。原発事故さえなければ・・・。

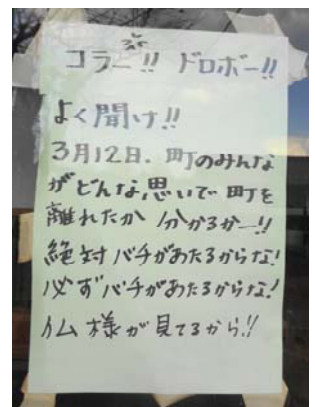
福島農民連の根本さんからは、避難による家族の分断・避難区域見直しによる地域の分断・米の作付制限による分断と風評・人口が減り不居住地域も・・・など福島

の状況と、犠牲者では終わらない・新しい時代の先がけなるため、あらゆるところで戦い大切なものを守る・次の世代に自信をもって渡せる福島にする・・・という決意が語られました。

2日目は、わたり病院で鈴木総務課長より、双葉町甲状腺エコーの受診状況やいわき市に避難している1500人を小名浜生協病院だけで受け入れられるのか?など不安もある。長い支援をお願いしたいとの訴えがありました。

佐藤組織部長からは、震災の実態・医療支援・放射線の影響についての学習会を行ったことなどの報告、「助け合い支えあえる仕組み」・「作戦を立て行動する仕組み」・「民医連、医療福祉生協の連帯」が私たちの強み。生協のネットワークにいると安心と思える結びつきをしっかりと作っていききたい。そして全国すべての原発を廃炉に!!・・・とお話がありました。『組合員さんがいて良かった』、『民医連で良かった』・・・の言葉に私も元気づけられました。

大震災・原発事故からまもなく2年。東京のマスコミ報道には、あまり取り上げられなくなった今日。「どうして原発ゼロなの・・・?」と悩んでいるみなさん!!復興



宝鏡寺に張られたメッセージ



参加者のみなさん

がほとんど進んでいない福島・たくさんの苦難を強いられている福島の人々・原発事故がもたらした悲惨な現状を自分の目で耳で実感してください。自分に何が出来るのかが見えてくると思います。

爆弾低気圧のおかげで、1泊2日が2泊3日に・・・。バスの中の1泊も忘れられない思い出です。参加して本当によかった。

(東京民医連事務局 石井真理)